

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里南中学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語」、「数学」、「英語」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（2）生徒に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

本校生徒の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（1）教科の正答率について 【※ 全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）との比較】

国語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
数学	学習指導要領第2章第3節数学における、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C
英語	学習指導要領に示されている4領域（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）に基づいて、その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

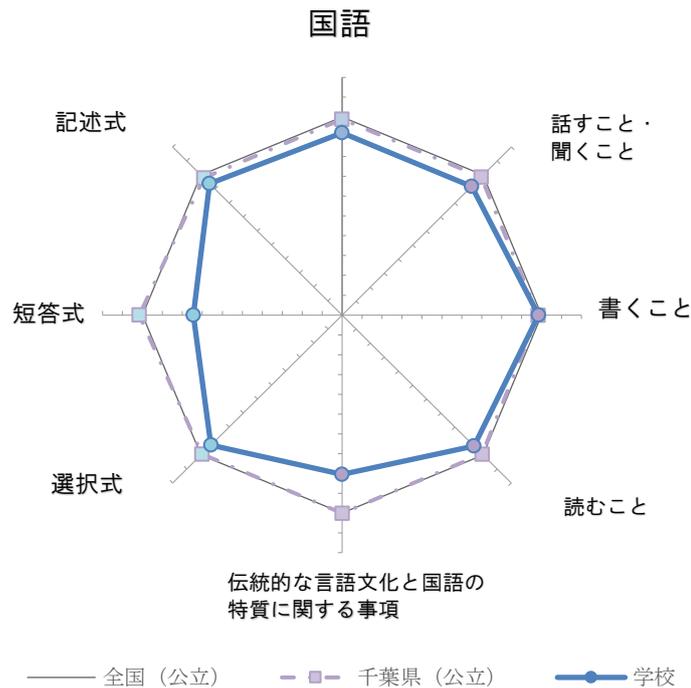
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



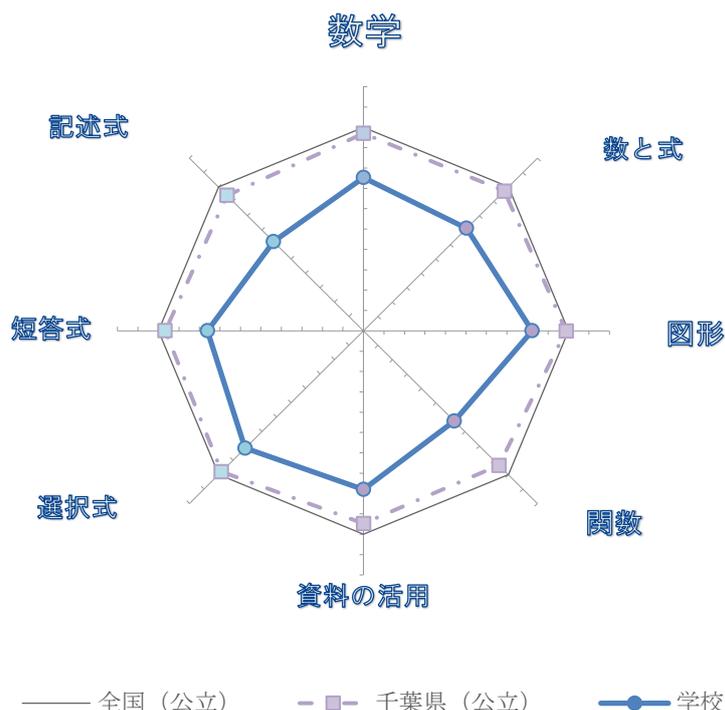
【特徴と現状】

- 全体的に、全国と比較して正答率が下回っていますが、県平均・全国平均と比べ正答率の差は約5ポイントです。
- 「書くこと」の領域では、県平均を上回り、全国平均とあまり差がありません。
- 文章の趣旨を明確にして表現することは、全国平均とほぼ同じでした。
- 「話すこと・聞くこと」については、県平均・全国平均をやや下回っています。
- 聞いて話の要旨を理解することについて、課題があります。
- 封筒の書き方など日常の言語文化についての知識が身についておらず、あまり体験していないことがうかがわれました。

【改善方策等】

- 「話すこと・聞くこと」の理解を深めさせるために、授業やその他の生活の中で人の話をよく聞いてその要点を理解すること、自分の思いをきちんと人に伝えることを心掛けさせます。
- 国語の授業では、黙読や音読の機会を増やし、文章に親しむ機会をつくります。
- 指示したことがきちんとできたかを常に教師が検証し、できていない場合は指示内容を再確認させることで聞く力を高めるよう取り組みます。
- 定期テスト等で聞き取り問題を行い、文章の要点を把握しまとめる能力を高めさせます。

数 学



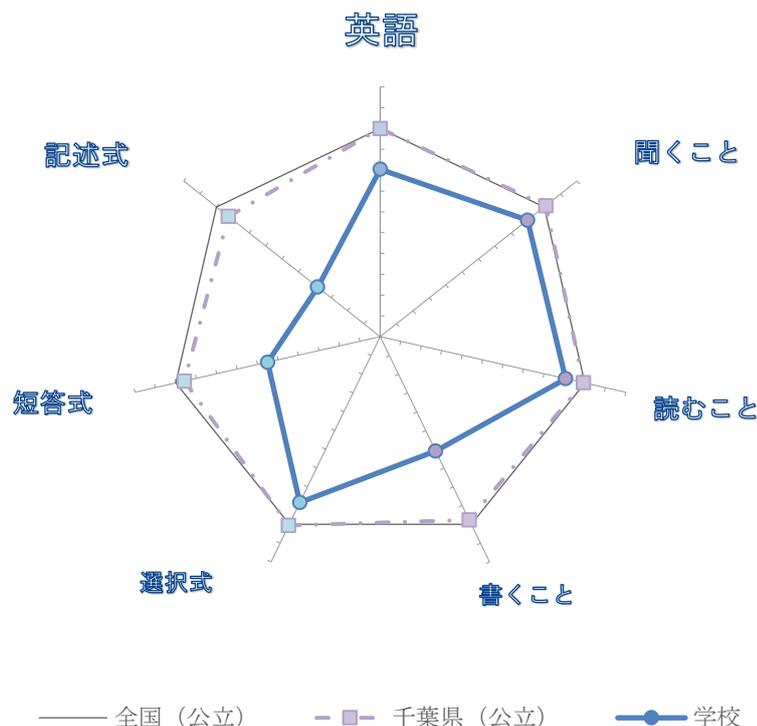
【特徴と現状】

- 全体の正答率では、全国平均と約 15 ポイントの大きな差があります。
- 「数と式」の分野においては特に差が大きく、約 18 ポイントの正答率の差があります。
- その他の分野でも同様に 10 ポイント以上の正答率の差があり、数学の基礎・基本的な事項がしっかりと身につけていない現状がうかがわれます。
- 「短答式」「記述式」の問題形式では、全国平均より 15 ポイント以上の正答率の差があります。文章題の内容や数字・文字の関係性の理解に課題があります。
- 方程式等の基本的な解法の定着、総合的・発展的な考察に課題があります。
- 関数における正答率が低く、関数そのものの意味についての理解に課題があります。

【改善方策等】

- 解法や定理など基礎・基本的な内容の定着を図る必要があります。そのためには、継続した学習への取り組みが必要です。
- 方程式の解法など、基本的な内容には丁寧に時間をかけて考えさせる時間を設定します。
- 定期的にプリント等を使い、基礎的な程度の問題や定理等の確認に取り組み、定期テストや単元テストで定着の度合いを検証し、各自の程度に合わせた指導・助言を行います。
- 掲示物等で常に数学の基礎的な事項に触れる環境を作り、知識の定着を図ります。

英語



※ 機器の整備状況により「話すこと」の調査は実施していません。

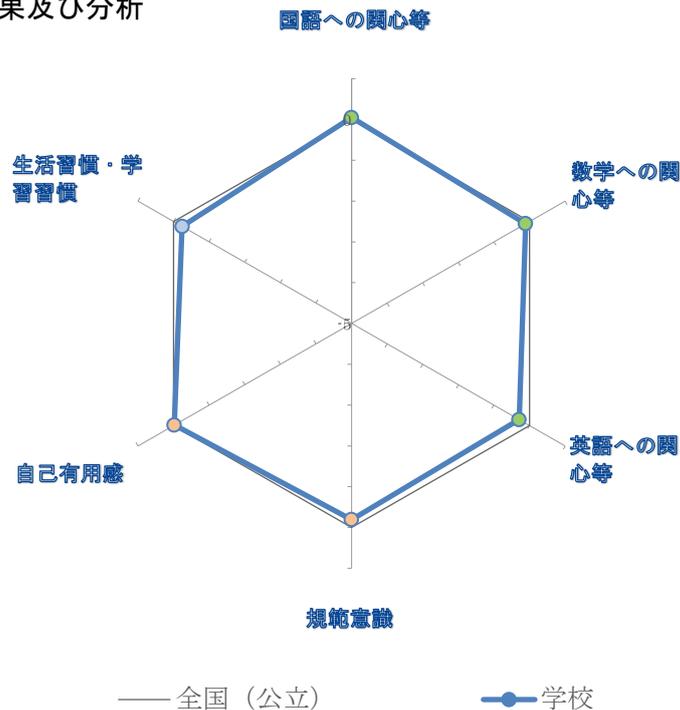
【特徴と現状】

- 全体の正答率は、全国平均より 10 ポイント以上下回っています。
- 「聞くこと」については、全国の正答率と比べ、差が約 8 ポイント以内です。
- 「読むこと」については、全国平均と比べ、約 5 ポイントの差であり、他と比べて差が小さいです。
- 「書くこと」については全国平均より正答率が 18 ポイント下回っており、英単語や英文を書く能力に課題があります。時間をかけて反復練習をする習慣が身につけていないことがわかります。
- 1 年生の内容からつまづきを感じたまま現在（3 学年）に至っている生徒が一部見受けられます。

【改善方策等】

- 英語については、英語に親しみを持たせ、基礎・基本事項を身につけさせることが大切です。
- 掲示物などに英語を取り入れ、身近なものから英単語や英文に慣れるような環境を作ります。
- 家庭学習などで、英単語や英文を繰り返し書いて練習するような課題を出し取り組ませます。また、書くだけでなく、意味を考えたり、使い方や破擦音^{はきつ}を意識したりできるように学習方法の指導を充実させてまいります。
- 定期的に小テストなどで英単語などが身につけているか検証し、不十分なところは補習を実施してまいります。

(3) 生徒質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 国語・数学への関心は全国とほぼ同程度です。
- 英語については、関心がやや下回り、必要性も全国平均を6ポイントほど下回っています。
- 国語を好きな生徒の割合は全国平均を上回り、授業についてはよくわかるという生徒が全国より10ポイント以上上回っています。
- 自己肯定感は全国平均を下回りますが、先生から良いところを認められていると感じる生徒は全国平均より8ポイント上回っており、物事を最後まで行い、喜びを感じる生徒が全国より10ポイント上回っています。
- 「学校へ行くのが楽しい」とする生徒は、全国平均より12ポイント上回っています。
- 規則を守り、人に親切にする傾向も全国平均を上回っています。

3 まとめ

各教科において基礎・基本を定着させていく事が大事だと考えています。漢字の学習では意味をとらえながら繰り返し練習して身につけられるようにし、計算では授業前に練習問題を実施する機会を充実させてまいります。また、英単語については、文章の中で活用する機会を増やして理解の定着に努めてまいります。

質問紙調査では、以下の質問において昨年度よりも肯定的な回答が多く見られました。

- ・「学校の規則を守っている」
- ・「物事を最後までやり遂げてうれしかった」
- ・「人の役に立つ人間になりたい」

家庭での生活でも、読書や・新聞を見る機会を持ったり、学校以外の社会にも目を向けたりすることが学習習慣にも結びつくと考えられます。学校でも、将来を考えた進路指導を含め、生徒個々に向き合い丁寧に教育活動に取り組んでまいります。ご家庭でも、規則正しい生活・学習習慣が身につくよう、引き続きご支援をお願いいたします。